

音羽遺跡 (甲府市教育委員会)

音羽遺跡は、甲府市西端の荒川中流域左岸の河岸段丘上に展開する、弥生時代から平安時代にかけての遺跡です。住宅建築に伴って実施した発掘調査では、古墳時代から平安時代にかけての竪穴建物跡10基をはじめ、溝跡や土坑が発見されました。坏・甕・甑といった土師器のほか、須恵器や灰釉陶器も出土しています。

調査地は建物跡が密集して発見されたことから、長期に渡り居住地に選定されていたことがわかりました。また、地形が中央付近から南へ傾斜しており、低地側で発見された遺構は粘土質シルトや粗粒砂で埋没していることから、洪水などの影響を受けやすい土地であったこともわかりました。居住地は洪水被害を受ける度に、埋没と復興、そして高台側への移動をおこなっていたと推測されます。



北壁にカマドを持つ竪穴建物跡



出土した坏

中山工区内遺跡 (北杜市教育委員会)

中山工区内遺跡は、北杜市武川町から白州町にまたがる中山の東側の山腹に広がる8つの遺跡群の総称で、圃場整備工事に先行して平成30年度から発掘調査をおこなっています。広大な調査区からは縄文時代、弥生時代、平安時代から近世までの遺構・遺物が確認されています。遺跡の中心は平安時代から中世の集落跡で、竪穴住居跡82、掘立柱建物跡34、炭窯41、陥し穴11、地下式土坑4などが見つかっており、特に炭窯の多さが注目されます。起伏があり、水を得づらい山の中に、大規模な平安時代の集落が農業を目的に営まれたとは考えにくく、中山の周辺が比定地となっている真衣野牧（馬の牧場）の経営に関わった人々の集落跡ではないかと推測されます。



中山工区内遺跡調査区全景（東から）



遺物出土状況

Ⅲ 史跡整備事業

史跡甲府城跡（愛宕山石切場跡）

史跡は、安山岩の岩脈をもつ愛宕山の西側斜面に位置します。敷地内に石切場の痕跡が認められる石材が散布することや、史料・絵図に「石取場」の記載があることから、古くから甲府城に関連した石切場であることがわかっています。

今回は、史跡の内容把握のための試掘調査を実施しました。調査の結果、現代の建物基礎の下部から横幅約7～8cmの矢穴をもつ石材を確認しました。この矢穴の大きさから、江戸時代中頃のものと考えられます。また、庭園の階段と池の一部を確認し、庭園として整備した際に土地改変をしたことがわかりました。



地表に見える矢穴をもつ石材



3 トレンチの矢穴をもつ石材

史跡甲府城跡（山梨県民会館跡地周辺）

史跡甲府城跡は戦国時代末期の豊臣政権下に築かれた城郭の跡です。調査をおこなった地点は、甲府城の南側、大手門東側の内堀に面した石垣が存在しており、近世の絵図史料では、この石垣の前面に「腰石垣」とよばれる低い石垣が描かれています。

今回の調査の結果、地表下約0.8mの深さより、高さ約1.1mの腰石垣を確認しました。腰石垣は、石垣の最下部となる根石を含め、3段の石が積まれたもので、甲府城築城期にみられる「野面積」とよばれる積み方で積まれています。今回確認した箇所は、腰石垣の南端部にあたり、これまで不明確であった腰石垣の一端を解明することができました。



調査でみつかった腰石垣



調査地点遠景（南から）

しせき こう ふじょうあといしがきい じ かんり じぎょう 史跡甲府城跡石垣維持管理事業

史跡甲府城跡は、武田氏滅亡後の戦国時代末期に築城された城郭で、豊臣秀吉の時代に甲斐国を治めていた浅野氏が完成させたと考えられています。

城内には、築城当時の石垣が良好に残っており、約6haが国の史跡に指定されています。甲府城の石垣の積み方は、石をほとんど加工せずに積んでいく「野面積^{のづらづみ}」とよばれるものです。これは、全国のお城の中でも、特に古い時期のもので、貴重な文化財です。

山梨県埋蔵文化財センターでは、石垣維持管理事業として甲府城内全域の石垣の点検を実施し、この貴重な石垣を後世に残していくための取り組みをおこなっています。



点検作業状況



観測用ゲージの設置状況

しせきおおまるやま こ ふんさいがいふつきゅうじぎょう 史跡大丸山古墳災害復旧事業

史跡大丸山古墳は、古墳時代前期（4世紀）に造られた前方後円墳です。古墳の後円部には、組合^{くみあわせ}式石棺^{しきせつかん}の上に竪穴式石室をもつ珍しい構造の埋葬施設があります。組合式石棺からは2体分の人骨、石枕、青銅鏡などが納められ、竪穴式石室には、鉄のヨロイや剣などの武具や武器、農具などがあり、国内でも貴重な古墳であるため、2013年に国の史跡になりました。

2019年10月にあった台風19号で史跡指定範囲地の一部が雨と倒木によって崩落しました。幸いにも崩落箇所は古墳から大きく離れた場所にありましたが、崩落箇所の復旧と将来的に古墳が壊れないようにするために、樹木の伐採と崩落箇所に植生マットを張る復旧工事を実施しました。



樹木の伐採状況



植生マット設置の様子

IV 信玄公生誕500周年記念 武田氏関連遺跡

史跡武田氏館跡西曲輪北馬出（味噌曲輪地点）（甲府市教育委員会）

西曲輪北馬出は、武田氏館跡西曲輪北ますがたこぐち枡形虎口とぼしの付属施設です。虎口の土橋を渡り味噌曲輪に抜けると、その正面にあり西曲輪の北側出入口を防御していました。調査は、史跡整備に伴う資料収集のため、平成29年度から断続的に馬出の構造・規模を確認する作業を続けています。

調査すると、石せき積せきりが良好に残っており、武田氏館跡大手石かきうまだし積と同様に角馬出の平面形態であったと思われます。また、角馬出の構築時期は2時期あり、改修された痕跡も確認しました。角馬出より古い段階でも石積や堀跡を検出しており、馬出が複数回にわたり形態や規模を変えて西曲輪を防御していたことが判明しました。今後、発掘調査成果を詳細に検討し、整備工事の準備を始めていきます。



西曲輪北馬出石積検出状況



常滑焼検出状況



史跡武田氏館跡

しせきしんぶじょうあと 史跡新府城跡（韮崎市教育委員会）

新府城は八ヶ岳から甲府盆地に向かって伸びる七里岩台地の西崖に、武田家最期の将である武田勝頼が築城した戦国時代末期（今から440年前）の城郭です。この地域一帯は、戦国時代のみならず、古代・近世・近代と、駿河、諏訪や佐久とつながる要衝を果たしてきた地域であり良好な立地条件であったといえます。

今回の発掘調査地点は、新府城の中核である本丸の北側中央にある虎口部分で、史跡整備のために地下に埋まる遺構の状況を知るために調査を実施しました。調査によって、門を支えていた礎石などが確認され、当時の虎口の様子を検証できる知見を得ることができました。また、武田氏滅亡後の新府城の利用に関わる具体的な痕跡を確認できました。



門が焼けた直後に埋もれた釘



門を支えていた礎石（図中○）

V 遺跡を活かす・伝える

資料普及事業

山梨県埋蔵文化財センターでは、甲府城跡や銚子塚古墳ちょうしづか こふんなどの史跡や、遺跡の発掘調査で見つかった土器・石器などの出土品を活用し、県民の皆様に文化財に親しんでもらう活動をしています。

史跡を舞台に、価値を伝えるための説明会に加え、クイズを交えた古墳ツアーなど、楽しみながら学ぶことを目指しています。また、小中学校を中心に本物の「縄文土器」や「弥生土器」などを貸し出し、児童・生徒たちが間近で考古資料を観察するなどの体験や縄文土器作り体験、火起こし体験、勾玉づくり体験などを通して、文化財をより身近に感じることができる機会を作っています。



古墳ツアーでクイズ出題



史跡甲府城の解説の様子



日本遺産 星降る中部高地の縄文世界 —数千年を遡る黒曜石鉾山と縄文人に会う旅—

山梨県・長野県の豊かな縄文文化は、日本遺産に認定されています。八ヶ岳を中心とした中部高地には、ほかでは見ることができない縄文時代の黒曜石鉾山があります。その周辺にはムラが広がり、芸術性の高い縄文土器が多く見つかっています。数千年をさかのぼり、縄文人に会う旅に出てみませんか？



↑HPはこちら

令和2年度文化庁「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

知ろう！山梨の歴史 山梨の遺跡発掘展2021

発行日：令和3年3月13日

編集・発行：山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

TEL：055-266-3016 FAX：055-266-3882

<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>



共催：山梨県立考古博物館

協力：甲府市教育委員会、大月市教育委員会、韮崎市教育委員会、北杜市教育委員会、富士河口湖町教育委員会